

澁谷審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：7月5日（土）19時25分～19時50分

場所：オタワマリオットホテル3階 Wellington

【冒頭発言】

オタワの TPP 交渉会合は3日から原産地規則の分科会が行われているが、首席交渉官会合は、本日14時から開始され、18時30分ごろに終わった。冒頭、全体を早く取りまとめようという話が少しあり、その後すぐ中身に入った。

今日取り上げたのは、労働と法的制度的事項。

まず労働に関し、今日は3つの主要な論点について16時30分までかなり時間をかけて議論をした。3点のうち、一番議論になったのは、紛争処理に行く手前の協議メカニズム。今日かなり議論が煮詰まってきた、引き続き今夜、分科会で議論して、早く詰めるよう指示があった。もう一つの論点は強制労働等により作られたモノの取引を抑制するためのルール化について。これはなるべくオタワで解決しようということになった。

法的制度的事項は各分野の総論のようなものであるため、論点の数は多くあるが、大きな論点は3つ。その3つの論点について、今日議論を煮詰め、それ以外の論点については明日の朝、議論する。公務員の腐敗防止は大きな一つのテーマ。収賄防止等の制度が確立されている日本にはあまり関係ないが、そういった制度が確立されていない国について、細かい10を超える論点があるのでこれからそれを議論する。紛争処理についてもこの分科会で扱っている。

明日の首席交渉官会合は法的制度的事項の続きとSPSを議論し、午後は物品のテキストを扱う予定。分科会は今日までは原産地規則だけだったが、法的制度的事項も今夜から開始されるのではないかと。明日はそれに加えて知的財産、投資の分科会が始まる。

バイ会談について、今日の午前中は、鶴岡首席交渉官は4か国の首席交渉官とバイの会談を行い、もう1か国は夕食を兼ねてこれから行う。MA（市場アクセス）について、いくつかの国とは首席交渉官の間でも議論しているが、ほとんどの国とは今後のスケジュール感の議論が中心となっている。今日はMAの事務方の議論は行われておらず、明日は3か国と事務方の協議をすることで調整している。

【質疑応答】

記者：今朝の鶴岡首席交渉官のぶら下がりの時に、年末に向けてまとめたいという発言があった。今日の首席交渉官会合では、今後の進め方の議論があったそうだが、妥結を年末に向けて進めようという各国の共通認識があり、

それに基づいての発言だったのか。

澁谷審議官：米国のメディアで、オバマ大統領がニュージーランドの首相やチリの大統領と会った時にそういった発言をしたと報道されているが、USTRはもう少し慎重な言い方をしている。フロマン代表は5月閣僚会合後の記者会見において、野心的でハイレベルの合意ができた時が妥結の時だと言っているのだから、恐らくそれが公式見解ではないか。首席交渉官会合で、なんとなく年末の空気は出ているのは事実だが、今後のスケジュールを決めたということはない。いきなり初日からそういった議論はしないのではないか。朝、鶴岡首席交渉官が言った通り、オタワ後の今後のスケジュールは中身の議論を見てから議論されることとなる。

記者：アメリカの下院民主党議員がブルネイのイスラム法がおかしいので議論しろという要望を出しているが、この件について議論をしているのか。

澁谷審議官：米国で報道されているような連邦議会の議員の意見や特定の国の制度が話題になっているということはない。

記者：労働は首席交渉官で詰めて、閣僚に上げることはないのか。また、労働を首席交渉官が議論するのは今日で最後か。

澁谷審議官：なるべくオタワで論点を詰めようという雰囲気となっているのは事実。引き続き分科会で議論し、オタワにいる間にもう一度首席交渉官で話そうということになっている。

記者：原産地規則はベトナムでもめていた繊維の話もしているのか。

澁谷審議官：繊維はまた別途、分科会で議論している。

記者：首席交渉官会合の全体的な始まりの雰囲気はどうか。また、12か国の首席交渉官は全員揃っているのか。

澁谷審議官：いつもの首席交渉官会合よりも長い期間を取っているのだから、オタワにいる間にできるだけ詰めようという雰囲気は相当出ている。一か国だけ首席交渉官の都合が悪いということでその国の首席交渉官は来ない。

記者：首席交渉官のバイ協定でMAの議論をするのは、交渉官レベルでは詰まり切らないからか。

澁谷審議官：首席交渉官同士では、確認やいつごろまでに詰めようという議論をしている。

(以上)